

日本精線・子会社

ステンレス鋼線のトップメーカー、日本精線(本社・大阪市中央区、社長・新貝元氏)の子会社であるタイ精線は、今月、設立30周年を迎えた。また、きょう16日に現地で式典を開催。日本精線の2021年3月期を最終年度とする「第14次中期計画(NSR20)」でタイ精線は、ばね用線・極細線の生産能力拡大や生産管理システムの刷新などで約10億円を投資し、機能強化を図る。また将来的に月産1千トンを目指している。

「タイ精線」が設立30周年

日本精線は東南アジア向け1988年5月、タイ海外製造拠点として、タイ国内だけでなく世界に輸出の需要増を見込み、タインに設立。設立当初は軟質ステンレス鋼線の製造に特化していたが、2018年に家電向けばね用線、11長は「日系企業として早い段階から立ち上げ、苦しい時期を乗り越えてきたばね用線、15年た先人たちに感謝した」と話す。タイ精線の製造グループで国際競争力を強化する(同)と

10億円投資、ばね用線など増強

高機能独自製品販売に注力

08年に家電向けばね用線、11長は「日系企業として早い段階から立ち上げ、苦しい時期を乗り越えてきたばね用線、15年た先人たちに感謝した」と話す。タイ精線の製造グループで国際競争力を強化する(同)と



タイ国内だけでなく世界に輸出

精線グループの売上高比率が上昇した

30周年を迎え、新貝社長は「タイ精線は今後、高機能独自製品の製造に注力する。時代の流れに乗り、日本精線グループで国際競争力を強化する(同)と」

(綾部 翔悟)